

『名所江戸百景 - 百万都市江戸の自画像 - 』



歌川広重
「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」

大判錦絵揃物の内 安政4年(1857)11月
中山道広重美術館蔵(吉村コレクション)

開館5年目の春を迎える中山道広重美術館では、4月7日から春季特別企画展「名所江戸百景 - 百万都市江戸の自画像 - 」展を開催します。

歌川広重(1797-1858)晩年の代表作「名所江戸百景」。江戸市中から近郊の名所を描いたこのシリーズは、総数にして120枚(目録を含む)。広重の最大規模のそりい物です。

また、このシリーズ中「大はしあたけの夕立」や「亀戸梅屋舗」は、小中学校の教科書にも掲載されるくらい有名な作品です。同時代を生きた浮世絵師・葛飾北斎(1760-1849)のいわゆる“赤富士”「富嶽三十六景凱風快晴」と共に、「浮世絵と言えば...」と、誰もが思い起こす事ができる絵と言えましょう。さらにシリーズが海を渡り、フランスを中心としたジャポニスムの動向に大きく影響した事もしばしば語られる事実。前掲「大はしあたけの夕立」と「亀戸梅屋舗」はそれぞれ、V.ゴッホが油彩画で模写した作品が現存しています。

この春の中山道広重美術館では、この広重の代表作、珠玉の作品群を全点そりいでお見せします。近年の研究成果を踏まえ、広重が意図したであろうこのシリーズの魅力をお伝えしたいと思っています。

4月7日(木)～6月5日(日)

毎週月曜日(祝日の場合は翌日)休館

4月26日(火)～5月8日(日)は休まず開館します。

関連イベントがあります。15分をご覧ください。

編集後記

ついにと言っか、やっとと言っか、当欄でこの原稿を書くときが来ました。この春の人事異動により「広報えな」の編集を離れることとなりました。新市で半年、旧市から含めると5年間の広報担当でした。

初めのころは思うように紙面が作れず、締め切りのたびに徹夜作業を繰り返しました。初めて書いた特集記事は恥ずかしくて、いまだに読み返すことができませぬ。それでも多くの人に出会い、いろいろな場面に接する機会を与えていただきました。この5年間で得た貴重な経験「ブライスレス」と言ったところでしょうか。

お世話になった方々、応援してくださった方々には、この場を借りてお礼申し上げます。種

次号は4月15日号

発行日は4月15日(金)です

広報えな No.10

2005年(平成17年)4月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 秘書広報課
岐阜県恵那市長島町正家1丁目1番地1

☎26-2111 / ☎25-6150

<http://www.city.ena.gifu.jp/>

✉info@city.ena.gifu.jp

『広報えな』4月1日号、1部当たりの印刷経費は約19.9円(税込み)です。



『広報えな』は古紙100%の再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。